

東芝テック株式会社

証券コード:6588

ごあいさつ



代表取締役社長

池田隆之

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

当社はこのたび、2012年に買収した東芝グローバルコマースソリューション社の中期的な事業計画を保守的に見直して同社資産の評価を実施した結果、約660億円の減損損失を計上するとともに、今年度の連結業績予想を下方修正し、あわせて年間配当を無配とさせていただくことを決議しました。株主の皆様には多大なご迷惑、ご心配をお掛けしておりますことを、心からお詫び申し上げます。

事業の概況

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、為替の影響もあり、2,641億44百万円(前年同期比3%増)となりました。一方、損益面につきましては、海外リテールソリューション事業の粗利低下並びに同事業に係る新オペレーションシステム費用などの追加発生に伴う販売費及び一般管理費増加の影響により、営業損失5億39百万円(前年同期は122億18百万円の営業利益)、経常損失23億35百万円(前年同期は99億57百万円の経常利益)を計上いたしました。

2012年8月の買収後、グローバルコマースソリューション(GCS)事業の成長及びシナジーの創出に鋭意注力してまいりましたが、同事業の足元の状況及び主要顧客の投資傾向などを勘案した結果、需要の先行きをより保守的に見直す必要があると判断しまし

た。このような状況を踏まえて、新オペレーションシステムの立ち上げ時期及びコストを含む中期的な事業計画を見直し、減損テストを実施した結果、減損損失659億57百万円を特別損失に計上したことなどから、親会社株主に帰属する四半期純損失740億76百万円(前年同期は51億48百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)を計上するに至りました。

通期の見通し

第2四半期累計期間の連結業績につきましては、損益面において、海外リテールソリューション事業における粗利低下などに加え、東芝グローバルコマースソリューション・ホールディングス(株)及びその子会社に係るのれんを含む固定資産について減損損失659億57百万円を計上したことにより、前回予想を下回りました。

第3四半期以降の連結業績につきましては海外リテールソリューション事業における主要顧客のより慎重な投資姿勢の影響などから、売上高は前回予想から減少し、売上高減少に伴う粗利低下により、損益面も悪化する見込みです。

上記の状況を勘案し、通期の連結業績予想を下方修正しました。

業績が大幅に悪化し、配当を見送らざるを得ない事態になりましたことを、経営トップとして大変重く受け止めております。厳しい経営状況ではありますが、早期の業績回復及び復配に向け海外リテールソリューション事業強化施策への取り組みについて全社をあげて取り組んでまいります、更には、国内リテールソリューション事業では消費増税、インバウンド対応等の環境変化への迅速な対応を図ることにより事業拡大を目指してまいりますので引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月

▶▶▶ 2015年度上期の連結業績

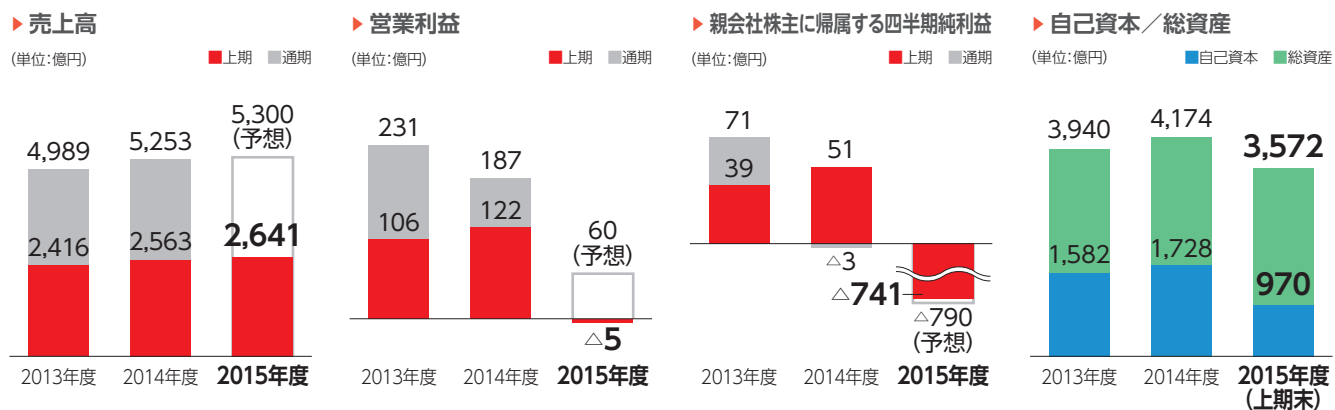
売上高	2,641	億円(前年同期比 3%増)
営業利益	△ 5	億円(前年同期は122億円)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 741	億円(前年同期は51億円)

2015年度通期の予想

5,300	億円(前期比 1%増)
60	億円(前期比68%減)
△ 790	億円(前期は△3億円)

連結業績ハイライト

POINT 為替の影響及び海外プリンティングソリューション事業が堅調に推移し増収するも、海外リテールソリューション事業で前年度からの粗利減、費用増が継続し営業損失。また、GCSIに関連する資産の減損等により親会社株主に帰属する四半期純損失741億円を計上。



各事業の概況 (2014年度の実績は新セグメントに組み替えています。)

リテールソリューション事業

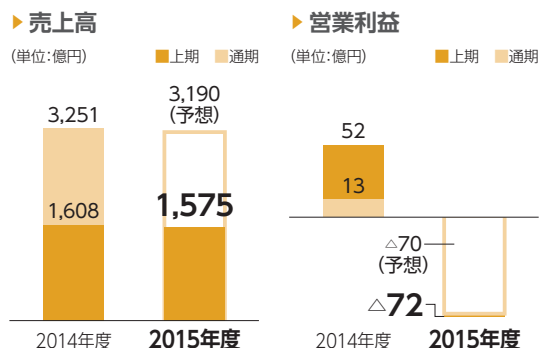


事業の内容

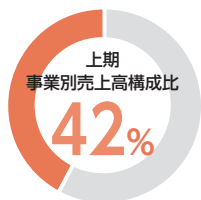
国内及び海外市場向けPOSシステム、国内市場向け複合機及びオートIDシステム*並びにそのソリューション関連商品の開発・製造・販売・保守サービス

上期業績概要

- 国内市場向けPOSシステムは流通小売業の新規出店計画の見直しなどを背景に厳しい状況が続き減収。国内市場向けは複合機及びオートIDシステムも減収。海外市場向けPOSシステムは主要顧客の投資抑制の影響などで前年同期並みの売上。
- この結果、リテールソリューション事業は減収(対前同比2%減)。
- また、海外リテールソリューション事業の損益悪化により72億円の営業損失(前年同期は52億円の営業利益)を計上。



プリンティングソリューション事業

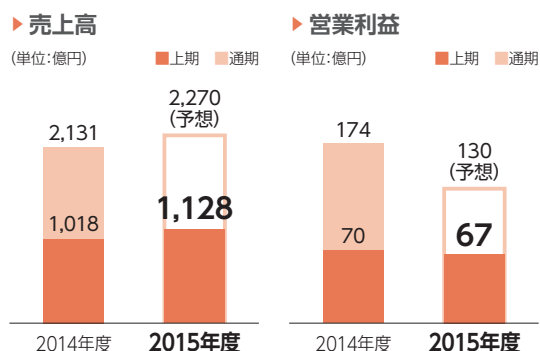


事業の内容

海外市場向け複合機及びオートIDシステム*並びにそのソリューション関連商品及び国内、海外市場向けインクジェットなどの開発・製造・販売・保守サービス

上期業績概要

- 当社独自の商品・販売網を活用した差別化による販売活動の推進、戦略商品の拡販、為替の影響などにより海外市場向け複合機を中心に増収(前年同期比11%増)。
- 一方、営業利益は販売費及び一般管理費の増加により減益(前年同期比4%減)。



*オートIDシステムとは、ハード・ソフトを含む機器により、自動的にバーコード、ICタグなどのデータを取り込み、内容を識別・管理するシステムをいいます。

東芝テックカレンダー

上期のトピックス

月の区分は原則としてトピックスの発表月です。



リテール事業



プリンティング事業



AI/IJ事業



企業情報

2015年

5月
MAY



量販店向け本部総合情報システム
「RX-700」を発売

PICK UP ①

6月
JUN



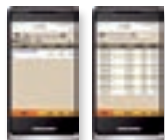
クラウド型飲食店向け本部システム
「FSanalyst(エフエスアナリスト)」を発売

飲食店における売上管理、POSマスタ設定集配信管理、電子ジャーナル管理などの業務をユーザ様のニーズに合わせて自由に選択してご利用いただけます。クラウド型での提供により、初期投資を抑えた短期間でのシステム導入が可能です。

マルチプラットフォームに対応し、WindowsPCだけでなくiOSやAndroid搭載のスマートフォンやタブレットからでも、当日の売上の閲覧ができ、必要なアクションがすぐに行えます。



「メニューマトリクス画面」



「スマートフォン画面」

7月
JUL



「Decoded Fashion Tokyo Summit 2015」で
近未来型のエンターテインメント・ショッピングを演出

PICK UP ②

8月
AUG



台紙を使用しないラベルに対応した
計量ラベルプリンタを発売

ライナレスラベルは台紙を使用しないため台紙ゴミの削減により、省資源化に貢献します。また、レイアウトや文字の分量に合わせて、ラベル長を変えて(フリーレングス機能)自動的にカット(オートカット機能)しますのでラベル用紙の無駄を削減できます。これまでラベル長が固定していたため、文字の分量が多い場合は2枚のラベルに分けていた食品などの表示を1枚にまとめて作業効率を改善するといったことも可能です。

近年、食品表示法の施行など、ラベルへの印字項目が増大する中、ラベル長を自由にカットできるライナレスラベルの需要が増大してきています。このような背景から、台紙のない、フリーレングス・オートカット機能のライナレスラベル用プリンタを開発しました。



「IH-6000-LC-S-RJ」
(シングルプリンタタイプ)



「IH-6000-LC-T-RJ」
(ツインプリンタタイプ)

9月
SEP



軽量・コンパクトで持ち運びに最適な
ポータブルプリンタ「B-LP2D」を発売

PICK UP ③

PICK UP ①

5月



●「RX-700」の特長

1. BIツールを使用した商品分析システムを搭載
2. 自社サーバ設置とクラウドでのご利用のいずれにも対応
3. 店舗POSシステム(PrimeStore)との融和

PICK UP ②

7月



TOKYO
SUMMIT
2015
09 JULY

「Decoded Fashion Tokyo Summit 2015」について

2011年にLiz Bacelar(リズ・バセラー)氏が創設した「Decoded Fashion(デコードド・ファッション)」が開催するイベントです。サミットの他に、ミートアップ(SNSなどを通じて参加者を募るイベント)がオーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、アイルランドなど世界12カ国で開催されました。今年は初めて日本で開催されました。

PICK UP ③

9月



「B-LP2D」

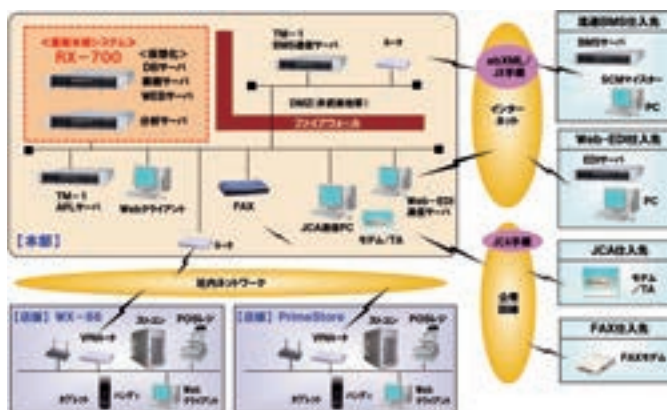
量販店向け本部総合情報システム「RX-700」を発売

RX-700は、量販店におけるマスタ管理・発注管理・仕入管理・在庫管理・買掛管理などの本部業務をユーザ様のニーズに合わせてサポートします。

本部業務機能に加え、従来機種にはなかった、BIツールの分析システムを搭載し、簡単な操作で売上推移やランキングなどの分析データをグラフ化、ビジュアル化することが可能になりました。

また、ユーザ様の運用に合わせて、自社サーバ設置とクラウドでのご利用のいずれにも対応可能となりました。

その他、RX-700は店舗POSシステムをコントロールする機能を搭載し、当社の最新店舗POSシステム「PrimeStore」の販促プロモーション設定を本部からメンテナンスでき、PrimeStoreのもつ多彩な販促機能を最大限に活用できます。



「システム概要図」

「Decoded Fashion Tokyo Summit 2015」で近未来型のエンターテインメント・ショッピングを演出

ファッションの未来に向け、ファッション業界とデジタルテクノロジー業界の関係者が一堂に会するイベント「Decoded Fashion Tokyo Summit 2015」が7月9日に開催され、当社もテクノロジーパートナーとして参画しました。同イベントの中で、当社は、最新の専門店向けテクノロジーや運営ノウハウを駆使したソリューションを活用し、近未来型のエンターテインメント・ショッピングを演出しました。会場内に再現したアパレルブランド店舗に当社の最新ソリューション(下記)を展示し、来場者には、実店舗とショッピングサイトの双方で、近未来型のエンターテインメント・ショッピングを体感していただきました。実店舗での買物を楽しんでいただくことで、来店のリピート率を高め、ショッピングサイトでの購入も促進する最新ソリューションです。



「パーソナライズ・リーフレット印刷システム」

当社は今後も市場のニーズを先取りした先進的な試みに積極的に取り組んでまいります。

● 展示された最新のソリューションについて

1. 「パーソナライズ・リーフレット印刷システム」
2. 「スマートシート®」技術を拡張した「オススメコーデ」ソリューション(参考出展)
3. RFID技術を活用した「オススメ商品検索システム」とスマートな会計システム



軽量・コンパクトで持ち運びに最適なポータブルプリンタ「B-LP2D」を発売

～従来機に比べ1.8倍の大容量バッテリーにより長時間運用も可能～

「B-LP2D」は長時間持ち運んでもストレスにならない軽量・小型化と突起部の少ないスマートなボディを実現。また、落下衝撃の耐久性を考慮した衝撃吸収素材を採用。ディスプレイや操作キーは上部に配置し、腰に装着した状態でも見やすく、使いやすい設計です。バッテリー容量は従来機の1.8倍(当社比)を搭載、連続使用での稼働時間が長くなりました。



使用例

CLOSE
UP

ICTを活用した トータルインバウンドサービスの提供を開始

～きめこまやかな「おもてなし」を実現～

東芝テック株式会社と株式会社東芝は、増加する訪日外国人（インバウンド）向けのビジネス拡充に積極的に取り組んでいる企業や団体に対して、ICTを活用した集客・接客をサポートする「トータルインバウンドサービス」の提供を開始します。

訪日外国人を迎える国内企業や団体では、外国語が話せるスタッフの不足や、煩雑な免税手続きによる業務負担の増加など課題がありました。また、訪日外国人にとっては、日本滞在時に観光・買い物などの情報をタイムリーに入手することが難しい場合や、スタッフとのコミュニケーションが十分にできないこともあり、観光や買い物などで多くの機会損失がありました。

両社が提供するトータルインバウンドサービスにより、迎える側の企業は業務負担が軽減され、接客に注力できるため、サービスの質の向上が見込まれます。また、訪日外国人は、スムーズな接客とコミュニケーションにより買い物時のストレスは軽減し、“今の時期しか見られない

名所・体験できないイベント”といった有益な観光情報もスマートフォンなどから得ることができます。

具体的な取り組みとして、「福岡・天神地下街」で開催中のイルミネーションやクリスマスイベントで、「訪日前プロモーションサービス」、「商業施設向け同時通訳サービス」、「位置情報サービス」を提供し、集客力・回遊性・接客のサービス向上のための実証実験を行います。

両社は、訪日外国人と迎える側の企業や団体にインバウンドビジネスを幅広くトータルにサポートし、人と情報をつなげる「場」を創ることで、訪日外国人の増加、売上増に貢献し、訪日外国人には観光や買い物でのきめこまやかな「おもてなし」を提供していきます。

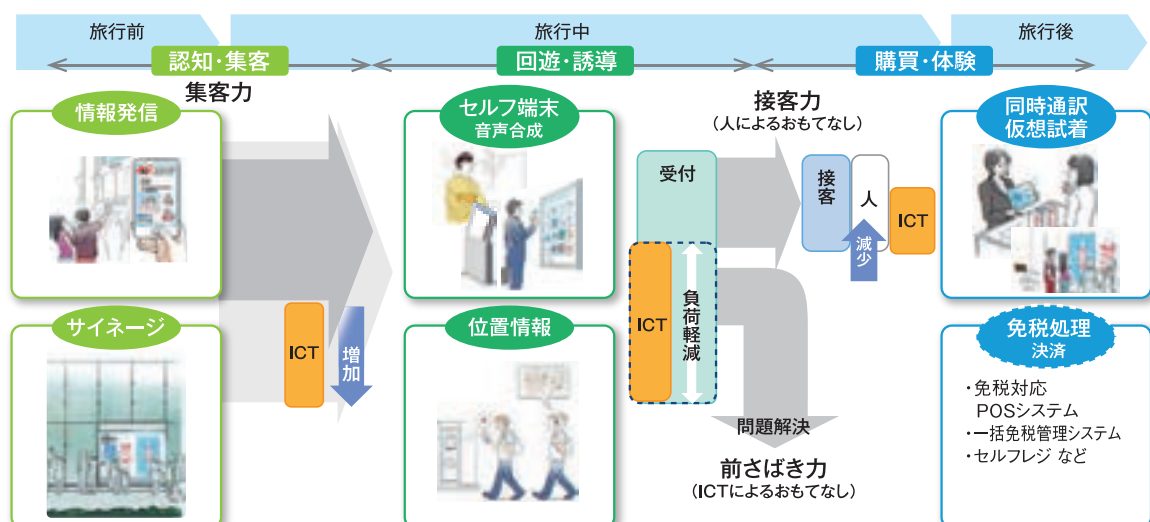
● サービスの概要



訪日外国人が利用する商業施設や店舗の免税オペレーションを効率化し、免税販売・購入明細・内容物明細レシートを発行するPOSシステムにより訪日外国人を“待たせない”免税処理システムを提供しています。

訪日外国人にスマートフォンを活用した時間と手間のかからないストレスフリーな決済サービスを提供します。

トータルインバウンドサービスによるおもてなし



会社概要

▶ 会社概況 (2015年9月30日現在)

商 号 **東芝テック株式会社**
TOSHIBA TEC CORPORATION

設 立 1950年2月21日

本店所在地 東京都品川区大崎1-11-1
(ゲートシティ大崎ウエストタワー)

連結子会社 国内:9社/海外:79社

資本金 39,970百万円

従業員数 連結:21,438名/単独:3,533名

発行済株式総数 288,145,704株

自己株式数 13,491,866株

株主数 13,249名

▶ 役員状況 (2015年10月2日現在)

取締役及び監査役

代表取締役社長 池田 隆之 (社長執行役員)

取締役 山本 雅人 (専務執行役員)
市原 一征 (専務執行役員)
丹黒 浩 (常務執行役員)
松本 敏史 (常務執行役員)
坂邊 政継 (常務執行役員)
井上 幸夫 (執行役員)
志賀 重範 *1

監査役 池田 浩之 [常勤]
川澄 晴雄 [常勤]
大内 猛彦 *2,*3
松本 俊彦 *2

当社WEBサイトにて株主様、投資家の皆様向けの 情報をご覧いただけます。

● 投資家情報 (IR)

株価、株式情報、財務・業績、IR資料等の情報をご紹介します。

● 社会・環境活動 (CSR)

環境、社会貢献活動などのCSR活動をご紹介します。また、CSR報告書等も掲載しています。



<http://www.toshibatec.co.jp/>

執行役員 (取締役兼務者を除く)

常務執行役員 谷嶋和夫
執行役員 川崎順一、麻生伸一、野波英隆、
川村悦郎、松木幹一郎、鈴木道雄、
日吉武司、内山昌巳、山口直大

- *1 社外取締役であります。
- *2 社外監査役であります。
- *3 東京証券取引所の定める独立役員であります。

株式事務に ついての ご案内

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
基準日 定時株主総会関係/3月31日 期末配当関係/3月31日 中間配当関係/9月30日
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行(株)
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行(株)の本店及び全国各支店で行っております。

注記 (1)記載金額は、原則として億円単位は表示単位未満を四捨五入、百万円単位は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
(2)事業別売上高は、事業間の売上消去前にて表示しております。
(3)業績予想及び配当予想については、2015年11月5日に公表した内容を記載しております。これは、当社が公表日現在入手していた情報及び合理的であると判断した一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

TOPICS

海外市場向けラベルプリンタ「B-FV4シリーズ」が 「2015年度グッドデザイン賞」を受賞

審査委員の評価

- 従来は顧客の目に触れないバックヤードで利用されていたラベルプリンタを、店頭や小売店の受付カウンターなどでも十分に利用できる質の高いデザインにして利用価値を向上させたことを評価した。上面の大きな窓は内部の用紙残量を確認しやすくとともにテクスチャーの対比により高品質なイメージを持たせている。また上面の窪みは上に物をおいた時でも誤動作を防ぐとともに、そのフォルム自体が製品の審美的な特徴となっている。それらがシリーズ全体のアイデンティティーとなっている。



ラベルプリンタ「B-FV4シリーズ」

